

ハートランド平尾台株式会社

I 法人の概要 (令和2年4月1日現在)

- 所在地 北九州市小倉南区平尾台一丁目1番1号
- 設立年月日 平成8年4月1日
- 代表者 代表取締役 加茂野 秀一 (令和2年6月26日就任)
- 資本金 91,200千円
- 北九州市の出資金 22,050千円 (出資の割合 24.2%)
- 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	9人	0人	1人	8人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	8人	0人	0人	8人
職 員	7人	0人	0人	7人

II 令和元年度事業実績

1 事業の経過及び成果

(1) 経過

令和元年度は、集客が見込める土日祝の天候不順や、台風の九州接近による大雨、令和2年2月下旬から新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、イベント等中止などの影響があり、19,849人(9.49%)の減となり、売上も減少した。しかしながら、外注費や事務経費の大幅な削減、さらに資本金減資による法人事業税の節税など、経営改善に取り組んだことから黒字決算となった。

(2) 成果

① 「平尾台自然の郷」の入園者数 189,275人(平成30年度 209,124人)

入園者数は、上期126,738人(前年度131,397人)、下半期62,537人(前年度77,727人)となった。上半期、下半期ともに減少し、通年では昨年度を約2万人下回った。

② 「福岡県平尾台自然観察センター」の入館者数 34,198人(平成30年度 39,980人)

入館者数は、上期23,918人(前年度25,820人)、下半期10,280人(前年度14,160人)となった。上半期、下半期ともに前年度を下回った。

③ 売上・利益

売上高は、209,686千円、経常利益は、4,694千円となった。法人税等控除後の当期純利益は、3,898千円(平成30年度:▲896千円)となった。

2 主な事業実施状況

(1) 「平尾台自然の郷」

ア PR活動

- ・イベントバンク（Web）を使用した幅広いPR活動を実施した。
- ・ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィークに焦点を当て、チラシ、ポスター（福岡地区の配布強化）・地域情報誌・Web等によりイベント情報の提供を行った。
- ・市内外の保育園・幼稚園（約750施設）にダイレクトメールを発送し、市内の関連施設に対し、チラシを配布した。
- ・各メディアへ積極的なプレスリリースを実施した。
- ・他の施設（皿倉ビジターセンター等）とタイアップし、アウトリーチ活動を実施した。
- ・園外の各イベント（まつりみなみ、陶磁器フェスタ等）に出店し、平尾台自然の郷の施設紹介を実施した。

イ 各種事業の実施（新規分）

- ・BBQ広場（4月）を新設した。
- ・「新元号初日の出会」及び「新元号最初のご来光登山」（5月）を実施した。
- ・地域及び関係団体と協働し「プラスの大地平尾台 in 北九州」（9月）を実施した。
- ・園内で収穫したブルーベリーを使用し、地元酒造所及び大学とタイアップしたリキュール酒を製造した。

ウ 各種事業の実施（継続分）

- ・学校との連携イベントとして、小学校環境体験科授業（5～10月）、地元小学校と「平尾台ケイビング学習」（9月）、中学校野球部対抗駅伝大会（1月）を開催した。
- ・地域との協働イベントとして、平尾台観光祭（7月）、新米まつり（9月）、東谷フェスティバル（10月）、平尾台ふゆはなび（2月）、平尾台野焼き見学会（2月）を実施した。
- ・体験教室イベントとして、全日本素人そば打ち名人大会九州予選会（6月）、夏休み工作研究大作戦（工房体験、自然体験）（7・8月）を実施した。
- ・平尾台の特色を活かしたイベントとして、ガイドツアー（ケイビング、カルストジャングル冒険ツアー）を実施した。
- ・スポーツイベントとして、トレイルランニングレース（4月）、ゾンビNightアスレチックマラソン（9月）、自転車障害物競走（シクロクロス）（12月）を実施した。
- ・音楽イベントとして、プラスフェスティバル（4月）、民族音楽（フォルクローレ）コンサート（9月）を実施した。
- ・天体観測イベントとして、ペルセウス座流星群鑑賞会（8月）、新春初日の出見学会（1月）を実施した。
- ・写真展イベントとして、平尾台四季の野草写真展（6月）、フォトクラブ花蓮写真展（9月）を実施した。
- ・駐車場を活用したイベントとして、カーミーティング（7月・8月・10月・12月）を実施した。
- ・その他のイベントとして、ブルーベリー摘み取り（7・8月）、キャラクターショー（9月）、こども凧揚げ大会（8月・1月）を実施した。

(2) 「福岡県平尾台自然観察センター」

- ・新規イベントとして、「水晶山ハイキング」、「桶ヶ辻急坂登山」、「四方台急坂登山」を実施した。
- ・平尾台散策道整備、遊歩道草刈、野草調査などにより、平尾台の景観維持、登山・散策者の安全対策に取り組んだ。
- ・野外イベントとして、鍾乳洞探検、登山（九州自然歩道、貫山展望）、観察会（野草、コウモリ）などを実施した。
- ・屋内イベントとして、ミニ門松作り体験を、特別展示として、写真展（野草、きのこ）やカルスト文化祭などを実施した。

Ⅲ 令和元年度決算

1 貸借対照表（総括表）

令和2年3月31日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	467,829,991	流 動 負 債	16,454,935
現 金 預 金	445,768,709	買 掛 金	582,761
売 掛 金	13,888,092	未 払 金	4,070,102
商 品	6,293,497	未 払 法 人 税 等	668,900
原 材 料	349,081	未 払 費 用	4,500,483
貯 蔵 品	178,834	賞 与 引 当 金	2,016,666
未 収 入 金	99,178	未 払 消 費 税	4,089,200
未 収 税 金	1,252,600	預 り 金	526,823
		負債の部合計	16,454,935
固 定 資 産	69,978,181	純資産の部	
（有形固定資産）	（69,686,981）	科 目	金 額
建 物	2,118,367	資 本 金	91,200,000
構 築 物	601,253	資 本 剰 余 金	347,437,619
車 両 運 搬 具	1,185,961	その他資本剰余金	347,437,619
器 具 備 品	12,875,142	利 益 剰 余 金	82,715,618
土 地	52,906,258	繰越利益剰余金	82,715,618
（無形固定資産）	（291,200）		
電 話 加 入 権	291,200	株 主 資 本 合 計	521,353,237
		純 資 産 の 部 合 計	521,353,237
資 産 合 計	537,808,172	負 債 及 び 純 資 産 合 計	537,808,172

2 損益計算書（総括表）

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日（単位：円）

科 目		金 額	
経 常 損 益 の 部	(営業損益の部)		
	営業収益		209,686,174
	売上高	209,686,174	
	営業費用		205,891,220
	売上原価	180,131,693	
	販売費及び一般管理費	25,759,527	
	営業利益		3,794,954
	(営業外損益の部)		
	営業外収益		899,286
	受取利息	54,997	
その他の営業外収益	844,289		
営業外費用		0	
営業外利益		899,286	
経常利益		4,694,240	
益 特 別 部 損	特別利益		0
	固定資産除却益	0	
	特別損失		1
	固定資産除却損	1	
税引前当期純利益			4,694,239
法人税、住民税及び事業税			795,718
当期純利益			3,898,521

IV 令和 2 年度事業計画

1 「平尾台自然の郷」

① 新たな取組み

かねてから人気のあった「夜の平尾台」をクローズアップし園内での夜間イベントを増やすことで、近年の酷暑でも『涼しい平尾台』を広くアピールすることで、集客を図る。

また、現在園内で栽培したブルーベリーの商品化に取り組んでいるが、体験イベントとして人気の高い「椎茸のほだ木づくり」をさらに発展させ、新たな園内特産品として椎茸を栽培できる環境を整備する。

② PR 活動

写真投稿サイトを使ったインターネット上でのイベント実施や幼稚園、保育園、福祉施設へのチラシ配布を実施する。

③ 夏季の夜間開園

夏季の酷暑の日中を避け、入園者が利用しやすい時間帯（夜間）に開園時間をシフトし、平尾台の自然を活かしたイベントを開催する。

④ 自主事業の収益改善

ブルーベリーの増植など果樹園の活用や青空高原市の再開（各工房、キッチンカーとの協働）、ブルーベリーフェア・大鍋会などのイベントを開催することで、収益や入園者の増加を図る。

⑤ ドリーネデッキ周辺の活用

ドリーネデッキ周辺の整備を進め、夜間イベント時のライトアップや椎茸栽培など新たな収穫体験メニューを検討する。

⑥ ボランティアの育成

平尾台で活動を希望する各種ボランティア（ガイド・登り窯）を育成する。

⑦ 他の施設との合同イベントの開催

他の施設とのコラボレーションによる自然体験イベントや陶芸等の体験教室の充実を図る。

2 「福岡県平尾台自然観察センター」

① 新規集客対策の実施

定例以外の登山や観察会を増やすことにより、新規参加者やリピーターの増加を図る。

② ボランティアの育成

能動的な活動ができるボランティアを育成するため、外部講師による講習会、他施設との交流会、専門資料による学習会等を開催する。

③ 自然保護意識の醸成

年間を通して自然と触れ合うイベント等を行い、カルスト台地特有の自然とその希少価値を意識することにより、自然保護意識を醸成する。

V 令和2年度予算

1 予定損益計算書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日（単位：千円）

勘定科目	令和2年度予算
(営業損益の部)	
売 上 高	211,139
売 上 原 価	187,969
一 般 管 理 費	21,384
営 業 利 益	1,786
(営業外損益の部)	
営 業 外 収 益	598
受 取 利 息	10
そ の 他 営 業 外 利 益	588
営 業 外 費 用	10
営 業 外 利 益	588
税 引 前 当 期 利 益	2,374
法人税・住民税及び事業税	1,013
当 期 利 益	1,361

VI 役員名簿

令和2年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役	加茂野秀一	社長
取締役	大庭千賀子	北九州市 企画調整局長
〃	鮎川典明	北九州市 産業経済局長
〃	東 義 浩	北九州市 建設局長
〃	清 水 宏	三菱マテリアル(株) 九州工場事務部長
〃	坪 井 治 夫	(株)ユアーズ 取締役管理本部長
〃	安 藤 俊 作	住友大阪セメント(株) 小倉事業所副所長
監査役	吉 野 浩 実	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部長
〃	佐 保 吉 則	(株)マテリアル九州 取締役社長